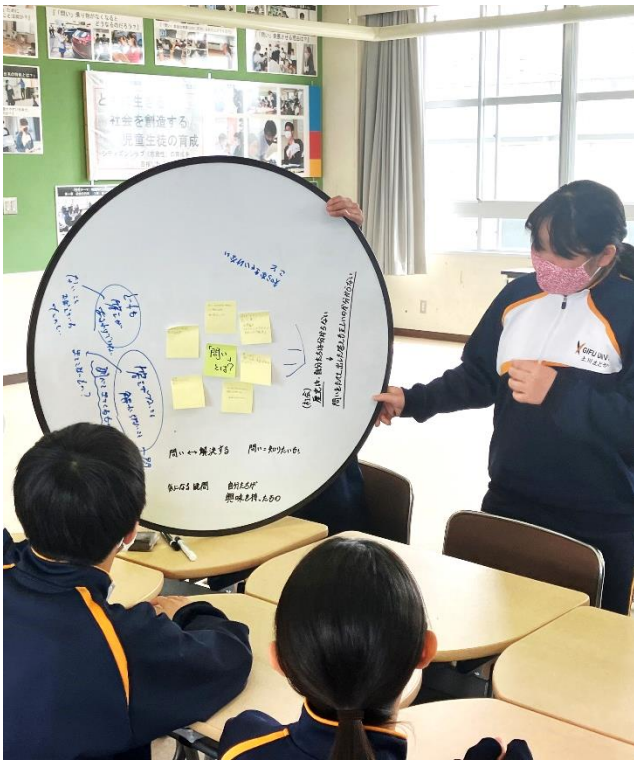


第8学年 学びのカテゴリー「社会に生きる」



8年3組は、「自分はどんな関わりの中で生きているか」の視点をもって大阪研修へ赴き、様々な体験活動を行う中で社会に生きる人々と出会い、「変化していく社会の中で自分はどう生きるか」という学級の探究テーマを設定した。テーマを設定する過程で「社会とは何か」を仲間と対話し、自分を取り巻く社会にアプローチできる多様な視点に気付くことができた。どのような視点からどんな問いをもち、どんな研修先を選択すれば、自分が生きていく社会を捉えることができるのかを協働的に考え、自分の生きる「社会」と、その社会でどう生きるかを見いだそうとしている。

8年1組は、「大阪には何があるか」という視点をもって、大阪研修に出かけ、町工場で働く人との出会いや様々な施設での体験活動から「誰もが幸せな社会とはどんな社会か」という探究テーマを作り出した。「幸せとは何か」を仲間と対話するなかで、本当の幸せとは何かを深く考えたり、社会にも目を向け、地域の特産品の開発に副業で取り組む人や長良川の自然環境の保護に取り組む人も「幸せとは何か」を対話したりしてきた。もっと幸せについて様々な視点から考え、自分の生き方を考えることができるように、仲間と問いを創り出し、どう生きるかを探究している。



大塚 光朗
浅井 拓也
高橋 亮
大坪 雅詩

8年1組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：社会に生きる (全105時間)

第8学年の目標	(1) 問題解決力に関わって 実社会や実生活の中にある問題に対する問いを生み出し、その問いを解決するために何ができるか、様々な視点や立場から考え行動することができるようにする。 (2) 関係構築力に関わって 仲間や実社会に生きる人の考えを共感的に受け入れ、それぞれの願いや考えを踏まえた上で、他者と協働しながら納得解や最適解を導こうとすることができるようにする。 (3) 貢献する人間性に関わって 自分や社会を見つめ直し、社会に生きる人々に敬意をもちながら、自分にできることを考え、他者と共に社会のために行動しようとする態度を養う。													
カテゴリー設定の理由	7年生までに、様々な問題と出会い、解決していく過程で、自分を取り巻く社会で生きる人々は、いろいろな見方や考え方をもって生きていることを理解しながら学んできた。自分の得意なことや苦手なことが認識できるようになり、自分の将来のことも考える時期である。これまで学んできたことを生かし、多様な価値観をもつ人が生きる社会で「自分はこれからどう生きていきたいのか？」を考え、自身の将来を見据える。その将来を考える中で、自分に必要なものや磨くべきこと等を模索し、判断し、それらを確立させるため行動する姿を具現させたい。													
学びの基盤となる道徳的諸価値	向上心、個性の伸長・希望と勇気、克己と強い意志・真理の探究、創造・思いやり、感謝・礼儀・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労・よりよい学校生活、集団生活の充実・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度・国際理解、国際貢献・自然愛護・よりよく生きる喜び													
学びを構成する要素	社会 社会問題 自然環境 科学技術 SDGs 後継者不足 外国人労働者 勤労 多様性 伝統文化 食文化 福祉 人間関係 地域社会 テクノロジー 働き方													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
単元名(時数)	I 「社会」を見つめる (27時間)				プ主 口体的 エに ク情 ト報 をを 立取 ち集 上す げ、 実行 する	II 「社会」を見つめ直す (58時間)				III 「社会」を考える (20時間)				
主な学習活動	○前年度の「多様性」の学びを振り返り、自分が生きている身の回りにあるものを捉える。 ○探究テーマの設定理由や、できるまでの過程をまとめる。 ○大阪研修で研修したいこと、見てみたいもの、聞きたいことをもとに校外学習先を決める。 ○大阪研修の事前学習や準備をする。 ○大阪研修で体験活動や調査活動を行う。 ・東大阪モノづくり研修・大阪校外学習先研修 ○大阪研修での学びを振り返る。						○夏休みに実施した個人探究をもとに、校外学習の計画を立てる。 ○小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を校外学習先にプレゼンする。 ○学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ○校外学習の準備をして、校外学習を実施する。 ○校外学習での学びを名大附属中と交流し、まとめる。 ○新たな問いをもとに、小グループで次の校外学習の計画を立てる。 ○小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を校外学習先にプレゼンする。 ○学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ○校外学習の準備をして、校外学習を実施する。 ○校外学習での学びを交流し、まとめる。 ※小グループでの活動を通して得た学びを探究テーマに還元できるように留意 ※段階的に校外学習の条件を変更 ※探究したい内容や分野に分かれたグループ編成を行う				○新たな問いをもとに東京研修の研修計画を小グループごとに計画する。 ○研修計画、行程などをプレゼンにまとめる。 ○小グループごとに校外学習先にアポイントを取り、校外学習の企画をプレゼンする。 ○研修計画や行程などを修正する。 ○東京研修の事前準備を行う。 ○探究を振り返り、名大附属中と交流するとともに自分の変化や成長をまとめる。 ○1年間の学びをまとめ、次年度の学びのイメージをもつ。			
想定される●ジレンマ■エラー【道徳的諸価値】	●これらどどんなことを考え、みんなと学んでいくといいのか。 ●他の人の「社会」と自分の思い浮かべた「社会」は違うけど「社会」って何なんだろう。 ●幸せって何なのか？どうしたら幸せになれるのか。何を幸せと言うのか。 ●どうして「働く」のか。お金のため？本当にそれだけなのか？ ●どうしたら自分の「社会」を知ることができるだろう。「社会」に対してできることは何かあるのか？ 【希望と勇気、克己と強い意志・思いやり、感謝・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労・国際理解、国際貢献 など】						■どこに研修に行くとか探究テーマについて考えることができるのか分らない。 ■行きたい校外学習先に連絡を取ったが、日時が調整できなかった。校外学習先からの許可がもらえなかった。 ■自分たちの行きたい校外学習先の良さの伝え方(プレゼンの方法)が分らない。 ■自分が探究したい事柄と、仲間が探究したい事柄が明らかに違う。両方の意見も分かるけれど、片方を尊重するともう片方が尊重されなくなる。どうしたらいいだろう？ ●対立している視点のどちらを探究していくといいだろう？ ●どこに研修に行くのか多数決で決めて本当にいいのかな？話し合いで本当にみんな納得できるのかな？ 【向上心、個性の伸長・希望と勇気、克己と強い意志・思いやり、感謝・礼儀・相互理解、寛容・遵法精神、公德心・社会参画、公共の精神・勤労・よりよい学校生活、集団生活の充実・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度・自然愛護・よりよく生きる喜びなど】				■東京では、どこに研修に行くとか探究テーマについて考えることができるのか分らない。 ■岐阜の人と東京の人で考えている幸せは違うのか。 ■行きたいところはあっても、時間が足りない。 ●自分たちの探究した幸せと他のグループが探究した幸せが対立している。どちらを幸せととらえるべきか。 【向上心、個性の伸長・礼儀・相互理解、寛容・遵法精神、公德心・社会参画、公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実・よりよく生きる喜び など】			
人材活用施設	(東大阪モノづくり校外学習先) ・関西35CM ・ソースビルズ溶接工業部 ・三島硝子建材部 ・柳富士製作所 ・フェハツ工業部 ・野田金属工業部 ・(有)アートステージ ・川村電研所 ・MACHI COCO ・協立工業部 ・フシヨウ金属工業部 ・(一社) 河内木綿はたおり工房 (大阪校外学習先校外学習先) ・万博記念公園しんじつターナー ・パナソニックスタジアム吹田 ・パナソニックミュージアム ・おおさかAC(グリーンエコプラザ) ・海遊館 ・NHK大阪放送局 ・大阪府庁 ・ナレッジキャピタルグランフロント大阪 ・天王寺動物園 ・あべのハルカス ・甲子園球場 ・江崎グリコ記念館 ・カップヌードルミュージアム ・梅田スカイビル						・ぎふコラー・長良川漁協 ・夏休みに調べた校外学習先など				・他のテーマを探究している仲間 ・Ⅱ期で出会った人や校外学習先			
教科等との関連	・国語：聞き上手になろう～質問で思いや考えを引き出す～ ・社会：日本の地域的特徴と地域区分(人口、産業、交通、通信) ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・理科：自然環境、生態系 ・家庭科：食品に関わること					・国語：立場を尊重して話し合おう～討論で多角的に検討する～ ・社会：日本の諸地域 ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・理科：自然環境、生態系 ・音楽：日本の伝統芸能 ・家庭科：食品に関わること ・技術：プログラミング ・外国語：Universal Design				・国語：国語の学びを振り返ろう～テーマを決めて話し合い、壁新聞をつくる～ ・社会：開国と近代日本の歩み(産業革命と資本主義) ・理科：自然環境、生態系 ・家庭科：食品に関わること ・技術：プログラミング ・外国語：research your topic				

8年1組 単元シート		本単元の目標		
		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 「社会」を見つめ直す (58)		探究の問いを解決していくためには誰と出会い、何を体験し、何を学ぶべきかを計画し、行動に結び付けることができるようにする。	自分の思いを伝えたり仲間の考えを共感的に受け入れたりしながら、それぞれの願いや思いを踏まえて探究テーマに迫ることのできる校外学習先を決定することができるようにする。	自分だけでなく仲間にとっても学びになることを考えて校外学習先を提案、決定しようとする態度や、校外学習先の方々の生き方に触れ、今の自分には何ができるか考えようとする態度を養う。
活動の計画	○夏休みの探究を交流する。 ○探究テーマをもとに問いをつくり、そのグループ内で「問いの解決に向けて、この校外学習先に行ってこんな体験をしたい」を決め、プレゼンを作成する。 (10)	○「なぜその校外学習先に行きたいのか」を校外学習先の担当者にプレゼンする。 ○校外学習先の担当者の反応からプレゼンを修正する。 ○クラス内で各グループがプレゼン発表し、クラスで1つ(2つ)を決定する。 ○クラスで決めた1つ(2つ)に赴き、問いに対しての知見を深める。 ○体験して得た情報を整理し、それをもとに次の問いを作る。 (10)	○探究テーマに迫ることのできる校外学習先と問いを各グループでつくる。 ○問いをクラスで対話し、考えを深める。 ○ここまでの活動を振り返って1組の探究テーマに対しての自分の考えをまとめたり、次の活動の計画を立てたりする。 ○一人一人の興味や関心、問いをもとにグループニングし、その中で次の校外学習先を考える。 (20)	○1回目の校外学習での考えをもとに2回目の校外学習先を決める方法などを決める。 ○1回目とは別のグループを形成し、2回目の体験先を決めプレゼンを作成する。 ○相手先に体験させてもらいたい理由をプレゼンし、その後修正強化する。 ○クラス内で各小グループがプレゼン発表し、クラスで2つ校外学習先を決定する。 ○名大附属中と交流し、自分の考えの変容や成長をまとめる。 (18)
加筆修正欄				
想定される姿	・みんなにとって学びになる企業は何かと考え、提案する。 ・複数の提案の中で自分の気持ちに折り合いをつけて1社に決定、判断する。 ・どうすれば自分たちの提案が選ばれるかを考えてプレゼン内容を工夫する。	・校外学習先の反応を受けプレゼンを改善する。 ・各グループの発表を聞き、その校外学習先に赴くことの良さに気付いたり、自分たちが提案する校外学習先の良さを語ったりする。 ・自分の提案した企業に行けなかったけれど、実際に体験に行ってみて学びがあったことを認識したり考えが変容したりした自分を振り返る。 ・体験で得た情報から新たな問いを見いだす。	・1回目のプレゼンの経験から2回目のプレゼン内容を工夫して作成したり、校外学習先への伝え方を改善したりする。 ・複数の提案の中で自分の思いや願いに折り合いをつけて選択、判断する。 ・どうすれば自分たちの提案が選ばれるかを考えてプレゼン内容を工夫する。	・1回目と2回目の体験での自分の考えがどのように変容したか、どのように強化されたかを振り返る。 ・一人一人の興味や関心をもとに編成されたグループで集まったときに、それぞれの学級での学びを交流し、良さや課題を踏まえた上で次の校外学習先を考える。
実際の姿				
■ エラー ● ジレンマ	■ 探究テーマに迫るにはどんな校外学習先がよいか分からない。 ■ 私たちのグループが提案した校外学習先は選ばれなかった。 ■ 1回目の校外学習で作った問いはどのように探究テーマとつながるか。	■ 校外学習先に行く目的をうまく伝えることができない。 ● 私は校外学習先 A へ行きたいが、他のメンバーは校外学習先 B へ行きたい。校外学習先 B の良さは分かる。どちらに行くべきか。	● 私の幸せかみんなの幸せのどちらを優先すべきだろう。 ● テクノロジーが発展し、私たちは幸せになるが、それは自然環境のためにはならない。どうしたらいいだろう。	

8年1組 本時案

(1) 目標

各グループの問いと校外学習計画には、どんな価値があるか話し合うことを通して、学級の探究テーマ「私たちは幸せになれるのか」との関連をもとに、どの価値から探究テーマに迫るとよいか考えることができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

各グループの問いと校外学習計画にある価値についての理解を深めた上で、どの問いと校外学習計画が、学級や自らの探究における新たな見方や考え方の発見、創造につながり、自分の生き方を豊かにするものかについて考え、議論する。(真理の探究、創造)

本時 (27/58)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)				○教師の手立てと見届け								
<p>1 前時のプレゼン発表を振り返り、本時の見通しをもつ ○プレゼン発表をして各グループの意見を聞いたけど、今日は何をしたいですか。 ・どのグループの問いも校外学習先もいいと思うから、どうやって決めればいいのか分からない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>各グループの問いと校外学習計画には、どんな価値があるか。</p> </div>				<p>○各グループのプレゼンと問いを振り返りながら、生徒の思いを聞き、本時の見通しがもてるようにする。</p>								
<p>2 全体で各グループへ質問する ○各グループの問いと校外学習計画について質問や意見はありませんか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">グループA 郷土の伝統・文化 「昔ながらとこれからをどう両立するか」</th> <th style="width: 25%;">グループB 節度・節制 「便利であることは本当に幸せなのか」</th> <th style="width: 25%;">グループC 社会参画・公共の精神 「どうしてボランティアをするのか」</th> <th style="width: 25%;">グループD 勤労 「幸せを生み出すのは効率化か手作業か」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>今までに身近な社会への貢献を通して、みんなの幸せを生み出している人に出会った。昔からあるものを大切にしている人もいれば、新しいものを生み出した人もいて、両立は難しいことだと思ったから、考えていきたい。</td> <td>これからも技術が発達し、私たちの生活は豊かになる一方で、失われていくものもたくさんある。だからテクノロジーとの関わりを考えていくことが幸せを考えることにつながると思う。</td> <td>私たちの手でよりよい社会を作っていくには、人任せにしているはいけなけれど、とても難しいことだと思う。だから、私たちがどう社会に関わるかを考えることは、幸せにつながると思う。</td> <td>働くことは大切だと思う。将来の私たちにとって必要だと思う。効率化と手作業、どちらの良さも分かるけれど、それぞれの立場で働く人と出会い、幸せについて考えていきたい。</td> </tr> </tbody> </table>				グループA 郷土の伝統・文化 「昔ながらとこれからをどう両立するか」	グループB 節度・節制 「便利であることは本当に幸せなのか」	グループC 社会参画・公共の精神 「どうしてボランティアをするのか」	グループD 勤労 「幸せを生み出すのは効率化か手作業か」	今までに身近な社会への貢献を通して、みんなの幸せを生み出している人に出会った。昔からあるものを大切にしている人もいれば、新しいものを生み出した人もいて、両立は難しいことだと思ったから、考えていきたい。	これからも技術が発達し、私たちの生活は豊かになる一方で、失われていくものもたくさんある。だからテクノロジーとの関わりを考えていくことが幸せを考えることにつながると思う。	私たちの手でよりよい社会を作っていくには、人任せにしているはいけなけれど、とても難しいことだと思う。だから、私たちがどう社会に関わるかを考えることは、幸せにつながると思う。	働くことは大切だと思う。将来の私たちにとって必要だと思う。効率化と手作業、どちらの良さも分かるけれど、それぞれの立場で働く人と出会い、幸せについて考えていきたい。	<p>○それぞれの問いや校外学習計画について整理し、共通理解ができるようにするために、生徒の考えたことや質問が書かれたワークシートをもとに話す準備をする場を位置付ける。</p> <p>○各グループの問いと価値の組み合わせについて対話できるように、子供の発言を丁寧に聞き取り、板書に位置付ける。</p> <p>○次の時間の決定に向けて、対話によって生み出された組み合わせを整理し、次時につなげる。</p>
グループA 郷土の伝統・文化 「昔ながらとこれからをどう両立するか」	グループB 節度・節制 「便利であることは本当に幸せなのか」	グループC 社会参画・公共の精神 「どうしてボランティアをするのか」	グループD 勤労 「幸せを生み出すのは効率化か手作業か」									
今までに身近な社会への貢献を通して、みんなの幸せを生み出している人に出会った。昔からあるものを大切にしている人もいれば、新しいものを生み出した人もいて、両立は難しいことだと思ったから、考えていきたい。	これからも技術が発達し、私たちの生活は豊かになる一方で、失われていくものもたくさんある。だからテクノロジーとの関わりを考えていくことが幸せを考えることにつながると思う。	私たちの手でよりよい社会を作っていくには、人任せにしているはいけなけれど、とても難しいことだと思う。だから、私たちがどう社会に関わるかを考えることは、幸せにつながると思う。	働くことは大切だと思う。将来の私たちにとって必要だと思う。効率化と手作業、どちらの良さも分かるけれど、それぞれの立場で働く人と出会い、幸せについて考えていきたい。									
<p>3 問いと価値の組み合わせについて話し合う ○どんな組み合わせが考えられますか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;">私たちの幸せについて考えていくなら、日々進化していくテクノロジーについて考えた方がいいと思う。でも、これには問題点もあると思うから、Dの視点も入れていきたい。</td> <td style="width: 50%;">CとDの問いは似ていると思う。ボランティアの人とお金のために働く人のどちらの人の話も聞いて探究テーマについて考えていきたい。どちらにも話を聞いて、私たちがやる活動を決めたい。</td> </tr> </tbody> </table>				私たちの幸せについて考えていくなら、日々進化していくテクノロジーについて考えた方がいいと思う。でも、これには問題点もあると思うから、Dの視点も入れていきたい。	CとDの問いは似ていると思う。ボランティアの人とお金のために働く人のどちらの人の話も聞いて探究テーマについて考えていきたい。どちらにも話を聞いて、私たちがやる活動を決めたい。	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか 各グループの問いや校外学習計画にある価値と、学級の探究テーマとの関連をもとに、どの価値から学級の探究テーマに迫るとよいか考えている。(問題解決力)</p> <p>・対話での発言の様子や振り返りシートの記述から見届ける。</p>						
私たちの幸せについて考えていくなら、日々進化していくテクノロジーについて考えた方がいいと思う。でも、これには問題点もあると思うから、Dの視点も入れていきたい。	CとDの問いは似ていると思う。ボランティアの人とお金のために働く人のどちらの人の話も聞いて探究テーマについて考えていきたい。どちらにも話を聞いて、私たちがやる活動を決めたい。											
<p>4 振り返りを記入する ・私たちの問いはBの校外学習先へ行くことで、さらに考えることができる。だからDの校外学習先にも行って私たちの問いについて聞いてみたいし、話してみたい。 ・私もCとDの問いは似ていると思う。だけどボランティアと働くことは違うと思うから、どちらの人にも話を聞くことで、比較して学級の探究テーマに迫っていきたい。</p>												

8年3組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：社会に生きる（全105時間）

第8学年の目標	<p>(1) 問題解決力に関わって 実社会や実生活の中にある問題に対する問いを生み出し、その問いを解決するために何が出来るか、様々な視点や立場から考え行動することができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 仲間や実社会に生きる人の考えを共感的に受け入れ、それぞれの願いや考えを踏まえた上で、他者と協働しながら納得解や最適解を導こうとすることができるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 自分や社会を見つめ直し、社会に生きる人々に敬意をもちながら、自分にできることを考え、他者と共に社会のために行動しようとする態度を養う。</p>
カテゴリー設定の理由	<p>7年生までに、様々な問題と出会い、解決していく過程で、自分を取り巻く社会で生きる人々は、いろいろな見方や考え方をもちて生きていることを理解しながら学んできた。自分の得意なことや苦手なことが認識できるようになり、自分の将来のことも考える時期である。これまで学んできたことを生かし、多様な価値観をもつ人が生きる社会で「自分はこれからどう生きていきたいのか？」を考え、自身の将来を見据える。その将来を考える中で、自分に必要なものや磨くべきこと等を模索し、判断し、それらを確立させるため行動する姿を具現させたい。</p>
学びの基盤となる道徳的諸価値	<p>向上心、個性の伸長・希望と勇気、克己と強い意志・真理の探究、創造・思いやり、感謝・礼儀・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労・よりよい学校生活、集団生活の充実・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度・国際理解、国際貢献・自然愛護・よりよく生きる喜び</p>
学びを構成する要素	<p>社会 社会問題 国際問題 日本と諸外国の違い 自然環境 科学技術 SDGs 勤労 多様性 伝統文化 食文化 福祉 人間関係 地域社会 政治 働き方 テクノロジー</p>
月	<p>4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月</p>
単元名(時数)	<p>I 「社会」を見つめる (27時間) プ II 「社会」を見つめ直す (58時間) 主 III 「社会」を考える (20時間)</p> <p>ロ 体 的 エ 情 ト 報 を 立 収 集 上 げ 、 実 行 す る</p>
主な学習活動	<p>○前年度の「多様性」の学びを振り返り、自分が生きている身の回りにあるものを捉える。 ○大阪研修で研修したいこと、見てみたいもの、聞きたいことをもとに校外学習先を決める。 ○大阪研修の事前学習や準備をする。 ○大阪研修で体験活動や調査活動を行う。 ・東大阪モノづくり研修・大阪企業研修 ○大阪研修での学びを振り返る。</p> <p>○問いをつくり、対話することを通して学級の探究テーマを設定する。 ○探究テーマの設定理由や、できるまでの過程をまとめる。 ○探究テーマについて、名大附属中と交流する。 ○身近な地域の問題について考える人や地域の魅力を発信するために活動している人に出会う。 ○探究テーマをもとに、夏休みの計画を立てる。</p> <p>○夏休みに実施した個人探究をもとに、校外学習の計画を立てる。 ○小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ○学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ○校外学習の準備をして、校外学習を実施する。 ○校外学習での学びを交流し、まとめる。</p> <p>○新たな視点をもとに、小グループで次の校外学習の計画を立てる。 ○小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ○学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ○校外学習の準備をして、校外学習を実施する。 ○校外学習での学びを名大附属中と交流し、まとめる。 ※小グループでの活動を通して得た学びを探究テーマに還元できるように留意する。 ※段階的に校外学習の条件を変更する。 ※探究したい内容や分野に分かれたグループ編成を行う。</p> <p>○東京研修の研修計画を小グループごとに計画する。 ○新たな問いをもとに研修計画、行程などをプレゼンにまとめる。 ○小グループごとに企業にアポイントを取り、校外学習の企画をプレゼンする。 ○研修計画や行程などを修正する。 ○東京研修の事前準備を行う。 ○探究を振り返り、名大附属中と交流するとともに自分の変容や成長をまとめる。 ○1年間の学びをまとめ、次年度の学びのイメージをもつ。</p>
想定される●シナマ【道徳的諸価値】	<p>■これからどんなことを考え、みんなと学んでいくといいのか。 ●他の人の「社会」と自分の思い浮かべた「社会」は違うけど「社会」って何なんだろう。 ●幸せって何なのか？どうしたら幸せになれるのか。何を幸せと言うのか。 ●どうして「働く」のか、お金のため？本当にそれだけなのか？ ●どうしたら自分の「社会」を知ることができるだろう。「社会」に対してできることは何かあるのか？ ●変化していく社会の中で、どう生きていけばよいのか？ 【希望と勇気、克己と強い意志・思いやり、感謝・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労・国際理解、国際貢献 など】</p> <p>■みんなが行きたいところは一致しているけれど、探究している内容には違う企業の方か合っている。 ●部会での考え方を岐阜で真似するだけでは発展しなさそうだな。どうしたら？ ●岐阜もたんだんと東京のように都市化が進んでいるが、今ある自然環境も大事にするためにはどうしたらよいだろうか？ ●東京の社会で過ごしてみたいけれど、岐阜にも変化がある。どちらで過ごそう？ ●東京も昔は自然環境がなくなってきたはず。東京で自然を大事にしてきた人はどんな気持ちで近代化を見てきたのだろうか？ 【向上心、個性の伸長・礼儀・相互理解、寛容・遵法精神、公德心・社会参画、公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実・よりよく生きる喜び など】</p>
人材活用施設	<p>(東大阪モノづくり校外学習先) ・朝倉光501 ・ノースヒルズ溶接工業所 ・三島硝子建材所 ・熊富士製作所 ・フセハ工業所 ・野田金属工業所 ・(有)アーツテック ・川村義経神社 ・株MACHI COCO ・臨立化学工業所 ・ワシウ金属工業 ・(一社)河内木綿はたおり工房</p> <p>(大阪企業校外学習先) ・万博記念公園Lガジオア ・パナソニックスタジアム吹田 ・パナソニックミュージアム ・おおさかATCグリーンエコプラザ ・海遊館 ・JR東大阪放送局 ・大阪府庁 ・アレッジキャピタルグラウンド大阪 ・天王寺動物園 ・あべのハルカス ・甲子園球場 ・江崎グリコ記念館 ・カッパーストールミュージアム ・福田スカイビル</p> <p>・ぎふコラー・長良川漁協 ・夏休みに調べてきた企業など</p> <p>・他のテーマを探究している仲間 ・単元IIで出会った人や企業 ・地元を離れて他県で過ごしている人</p>
教科等との関連	<p>・国語：聞き上手になるう～備前で思いや考えを引き出す～ ・社会：日本の地域の特徴と地域区分(人口、産業、交通、通信) ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・理科：自然環境、生態系 ・家庭科：食品に関すること</p> <p>・国語：立場を尊重して話し合おう～討論で多角的に検討する～ ・社会：日本の諸地域 ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・理科：自然環境、生態系 ・音楽：日本の伝統芸能 ・家庭科：食品に関すること ・技術：プログラミング ・外国語：国際理解</p> <p>・国語：国語の学びを振り返ろう～テーマを決めて話し合い、壁新聞をつくる～ ・社会：開国と近代日本の歩み(産業革命と資本主義) ・理科：自然環境、生態系 ・家庭科：食品に関すること ・技術：プログラミング ・外国語：国際理解</p>

8年3組 単元シート		本単元の日標		
		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 「社会」を見つめ直す (58)		探究テーマをもとに問いをつくり、そのためには誰と出会い、何を体験し、何を学ぶべきかを計画し、行動に結び付けることができるようにする。	自分の思いを伝えたり仲間の考えを共感的に受け入れたりしながら、問いとそれぞれの願いや思いを踏まえて探究テーマに迫ることのできる校外学習先を決定することができるようにする。	自分だけでなく仲間にとっても学びになることを考えて校外学習先を提案、決定しようとする態度や、校外学習先の方々の生き方に触れ、今の自分には何ができるか考えようとする態度を養う。
活動の計画	・夏休みに調べてきたことを交流する。 ・探究テーマをもとに問いをつくり、その解決に向けて、この校外学習先に行ってこんな体験をしたい」を決め出し、プレゼンを作成する。 (10)	・「なぜその校外学習先に行きたいのか」を相手先にプレゼンする。 ・相手の反応からプレゼンを修正強化する。 ・クラス内で各小グループがプレゼン発表し、クラスで1つ（2つ）体験先を決定する。 ・クラスで決めた1つ（2つ）に赴き、問いに対しての知見を深める。 ・体験して得た情報を整理する。 ・整理した情報をもとに、次の問いをつくる。 (10)	・探究テーマに迫れるであろう校外学習先と問いを各グループでつくる。 ・問いについてクラスで対話し、考えを深める。 ・ここまでの活動を振り返って3組の探究テーマに対しての自分の考えをまとめたり、次の活動の計画を立てたりする。 ・一人一人の興味や関心、問いをもとにグルーピングし、その中で次の体験先を考える。 (25)	・1回目の体験での考えをもとに、2回目の体験先を決める方法や条件を決める。 ・1回目とは別のグループを形成し、2回目の体験先を決めプレゼンを作成する。 ・相手先に体験させてもらいたい理由をプレゼンし、その後修正強化する。 ・クラス内で各小グループがプレゼン発表し、クラスで2つ校外学習先を決定する。 (13)
加筆修正欄				
想定される姿	・みんなにとって学びになる校外学習先は何かと考え、提案する。 ・複数の提案の中で自分の気持ちに折り合いをつけて1つに決定、判断する。 ・どうすれば自分たちの提案が選ばれるかを考えてプレゼン内容を工夫する。	・クラスに提案しようとする校外学習先の方にプレゼン発表し、そこで何を何のためにどう学びたいかを語る。 ・プレゼンを見せた相手の反応を受け、プレゼン内容を改善する。 ・各グループの発表を聞き、その校外学習先に行くことの良さに気付いたり、自分たちが提案する校外学習先の良さを語ったりする。 ・自分の提案した校外学習先に行けなかったけれど、実際に体験に行ってみて学びがあったことを認識したり考えが変容したりした自分を振り返る。 ・体験で得た様々な情報から新たな問いを見いだす。	・1回目のプレゼンの経験から2回目のプレゼン内容を工夫して作成したり、校外学習先の方への伝え方を改善したりする。 ・複数の提案の中で自分の思いや願いに折り合いをつけて選択・判断する。 ・どうすれば自分たちの提案が選ばれるかを考えてプレゼン内容を工夫する。	・1回目と2回目の体験での自分の考えがどのように変容したか、どのように強化されたかを振り返る。 ・一人一人の興味や関心、問いをもとに編成されたグループで集まったときに、それぞれの学級での学びを交流し、良さや課題を踏まえた上で次の校外学習先を考える。
実際の姿				
● エラー	■ 探究テーマに迫れるような校外学習先がどこか分からない。			● 1回目のテクノロジーの観点とつながるグローバルの観点を2回目は体験したいけど…みんなと違うな。
	● 私一人は校外学習先 A を推すが、他のメンバーはみんな校外学習先 B を推している。でも校外学習先 B の良さも確かに分かる。グループとしてどちらを推すべきか。		● テクノロジーはこれから当然進歩していくのだけれど、それに伴って自然環境は破壊されるかもしれない。どうしたらいいのだろうか？	
	■ 私たちのグループが提案した校外学習先は選ばれなかった。	■ 1回目の校外学習先は問いにどのようにつながるのだろうか？	● 社会のために何かしたいけど、できることは？	

8年3組 本時案

(1) 目標

学級の探究テーマ「変化していく社会の中で自分はどう生きるか？」に迫るための校外学習先を2つ選定することを通して、その校外学習先に行くまでの時間や距離など現実的な条件を考慮した上で、最も学級の探究テーマに迫ることのできる問いと活動を見だし、みんなが納得できる校外学習先を選定することができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

各グループの問いと校外学習計画にある価値を踏まえた上で、どの問いと校外学習計画が、学級や自らの探究において新たな見方や考え方の発見、創造につながり、自分の生き方を豊かにするものか考えて議論し、選択・判断する。(真理の探究、創造)

本時 (27/58)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け										
<p>1 前時の活動を振り返る</p> <p>○プレゼン発表後の対話を終えて、みんなで考えたことは何だったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回は、3組の問いを自然環境から捉えるか、それともテクノロジーか文化か世界かで意見が対立した。 ・それぞれに良さがあり、どこに行っても問いに迫ることはできるはず。でも現実、行けるのは2つ、時間や移動手段なども考えていく必要があるな。 	<p>○提案された各校外学習先と、どのような問いで探究テーマに迫ることができるか再度確認した上で「今回の校外学習先を選ぶ際の条件は何だったか」と問い、複数の提案から校外学習先を絞っていく視点を思い出し、切実感をもって本時に臨めるようにする。</p>										
<p>探究テーマ「変化していく社会の中で自分はどう生きるか？」に迫るには、どの問いをもって、どこへ校外学習に行き、何を見て考えてくるとよいか？</p>	<p>○D(どう生きるか) リーダーが会を進行できるように、流れを事前に確認しておく。</p> <p>○学級の中で今どこまで校外学習先を絞れているのか、今どんなことで困ったり悩んだりしているのかを問う。</p> <p>○学級全体の思考の流れが掴めるよう、構造的な板書でそれぞれの考えや意見を位置づける。また、道徳的諸価値を表出した言葉があれば板書に位置付ける。</p>										
<p>2 課題について学級全体で対話する</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; padding: 5px;"> 校外学習先 A 自然環境の視点から社会を捉えることができる。今日までどのように長良川を守ってきたか、これからどう守っていくか。 </td> <td style="width: 25%; padding: 5px;"> 校外学習先 B 岐阜の伝統文化である薬草をこれからも大切にしていこうとする視点で社会を捉えることができる。 </td> <td style="width: 25%; padding: 5px;"> 校外学習先 C 時代の流行を捉えて会社を運営してきている。変化していく社会の中で生き残っていく術を学ぶことができる。 </td> <td style="width: 25%; padding: 5px;"> 校外学習先 D 岐阜市民のことや未来を考えて運営している。身近な地域がどんな思いで前に進んでいるのか学ぶことができる。 </td> <td style="width: 25%; padding: 5px;"> 校外学習先 E 今の食料自給率を見ると日本にあるものだけでは生きていけない社会になっている。世界との繋がりを学ぶことができる。 </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の校外学習ではテクノロジーについての問いを考えることができた。その対にある自然環境の観点からじっくり考えたい。 ・校外学習先 D で話を聞くのは身近な社会のことについて考えることが目的だけれど、去年に柳ヶ瀬で探究活動してきたから、それよりも校外学習先 E で活動してグローバルな視点を取り入れる方が、問いに迫るための視野が広がりそうだな。 ・ぎふコーラの人の思いも以前直接聞かせてもらったので、今回の校外学習では今までと違う視点が入るといいな。 ・校外学習先 A に行くなら、実際の川も直接見てみたいよね。帰りにちらっと川の様子見に行けないかな？ <p>○本当にそれは、その校外学習先でないと学べないことなのか。</p> <p>○どのような組み合わせが選択肢としてあるか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> 校外学習先 A+α ●体験を通して環境保護の視点を得られる。 ●帰り道に実際に川を見てみるといいな。 ▲移動に時間がかかりそう。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> 校外学習先 C ●実際に「変化していく社会」の中を生き抜いてきた会社だからこの考え方が得られる。 ▲前回の校外学習先と内容が少し被る。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> 校外学習先 E ●他の校外学習先には無い、グローバルな視点を得られるのはここだけだろう。 ●外国の方から見た社会を聞いてみたい。 </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習先 C からはテクノロジーの面で、校外学習先 E からは物流という面で、それぞれ「変化していく社会」を捉えて生き抜いてきた企業だよな。あとどちらの面で私たちが学びたいか、が重要ではないか？ ・校外学習先 C よりも、この問いがあれば新たな視点を得られる校外学習先 E の方が僕らの視野が広がるよ。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 校外学習先 A+α 身近にあるけれど関心なかった自然環境の視点を得て、前回に学んだテクノロジーの視点と関連付けて考えられるようにしよう。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 校外学習先 E 「世界から見た日本の社会」という新たな視点を得て、今後どう世界とつながり、どう世界と関わっていくのかを考えられるようにしよう。 </td> </tr> </table>	校外学習先 A 自然環境の視点から社会を捉えることができる。今日までどのように長良川を守ってきたか、これからどう守っていくか。	校外学習先 B 岐阜の伝統文化である薬草をこれからも大切にしていこうとする視点で社会を捉えることができる。	校外学習先 C 時代の流行を捉えて会社を運営してきている。変化していく社会の中で生き残っていく術を学ぶことができる。	校外学習先 D 岐阜市民のことや未来を考えて運営している。身近な地域がどんな思いで前に進んでいるのか学ぶことができる。	校外学習先 E 今の食料自給率を見ると日本にあるものだけでは生きていけない社会になっている。世界との繋がりを学ぶことができる。	校外学習先 A+α ●体験を通して環境保護の視点を得られる。 ●帰り道に実際に川を見てみるといいな。 ▲移動に時間がかかりそう。	校外学習先 C ●実際に「変化していく社会」の中を生き抜いてきた会社だからこの考え方が得られる。 ▲前回の校外学習先と内容が少し被る。	校外学習先 E ●他の校外学習先には無い、グローバルな視点を得られるのはここだけだろう。 ●外国の方から見た社会を聞いてみたい。	校外学習先 A+α 身近にあるけれど関心なかった自然環境の視点を得て、前回に学んだテクノロジーの視点と関連付けて考えられるようにしよう。	校外学習先 E 「世界から見た日本の社会」という新たな視点を得て、今後どう世界とつながり、どう世界と関わっていくのかを考えられるようにしよう。	
校外学習先 A 自然環境の視点から社会を捉えることができる。今日までどのように長良川を守ってきたか、これからどう守っていくか。	校外学習先 B 岐阜の伝統文化である薬草をこれからも大切にしていこうとする視点で社会を捉えることができる。	校外学習先 C 時代の流行を捉えて会社を運営してきている。変化していく社会の中で生き残っていく術を学ぶことができる。	校外学習先 D 岐阜市民のことや未来を考えて運営している。身近な地域がどんな思いで前に進んでいるのか学ぶことができる。	校外学習先 E 今の食料自給率を見ると日本にあるものだけでは生きていけない社会になっている。世界との繋がりを学ぶことができる。							
校外学習先 A+α ●体験を通して環境保護の視点を得られる。 ●帰り道に実際に川を見てみるといいな。 ▲移動に時間がかかりそう。	校外学習先 C ●実際に「変化していく社会」の中を生き抜いてきた会社だからこの考え方が得られる。 ▲前回の校外学習先と内容が少し被る。	校外学習先 E ●他の校外学習先には無い、グローバルな視点を得られるのはここだけだろう。 ●外国の方から見た社会を聞いてみたい。									
校外学習先 A+α 身近にあるけれど関心なかった自然環境の視点を得て、前回に学んだテクノロジーの視点と関連付けて考えられるようにしよう。	校外学習先 E 「世界から見た日本の社会」という新たな視点を得て、今後どう世界とつながり、どう世界と関わっていくのかを考えられるようにしよう。										
<p>3 3組が行く校外学習先を話し合いで決定し、全員で確認する</p> <p>○校外学習先は () と () に行くことに決定でよいですか。</p>	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>限られた条件の中で、どの問いで探究テーマに迫ることが学級として有益かを考え、みんなが納得するような校外学習先を選定している。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での発言の様子やワークシートの記述から見届ける。 										
<p>4 校外学習先の決定までの流れを振り返る</p> <p>○校外学習先を決めるまでを振り返ってみてどうだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の校外学習先を決める時と比べて、「二つ選ぶ」というのは幅が広がったように見えたけど、午後の校外学習先に間に合うかどうかという時間的制約があると選ぶのがとても難しかった。でも今回決まった校外学習先 A と E では「変化していく社会」を間近で見て体感してきている方々とお話できるから○○について質問してみたい。 ・対話をしている時には発表できなかったけれど、校外学習先 A に行くためにはやはり結構な時間がかかるし、大分急いで動かないと午後の校外学習先 E には間に合わない。でもやはり、そうまでも行く理由が校外学習先 A にはあると思って、自分の身近にあった自然環境なのに全然気付けずこれまで生活してきたけれど、実際は色んな人の思いで守られてきてこれからも守っていこうとする思いがあることに気付ければ、自分の中の社会が広がるし、その社会の中でどう自分は自然環境と関わっていくかを考えられる。だから校外学習先 A はいいいなと思っています。 ・前回も今回も自分が提案した校外学習先は選ばれなかったけれど、すべてがうまくいくわけではないことばかりだった。問いに迫ることを自分たちで考えて、準備して、選んで、という過程が楽しかったし、自分で道を切り開いていくことの必要性を感じたからまたやりたい。 											